

⑰校内研修などによる授業改善

取組の具体①

「共通理解」を大切にする校内研修の推進

○第1回校内研修において、全員で「昨年度の校内研究(授業改善)の歩み」や「本年度の育成を目指す資質・能力、目指す子ども像、授業改善テーマ」等を共通理解した。

〈令和6年度学校教育目標、育成を目指す資質・能力〉
「できる・わかる、つながる、挑む 笑顔いっぱい杵築っ子」
「自ら学び、理解したことを活かす力」

〈授業改善テーマ〉

子どもが意欲的に学び

「できた・わかった」が味わえる授業の創造

～授業の流れとポイントが見える板書づくりを通して～

○第3回校内研修では、同じ方向性をもって日々の授業に取り組んでいくために、新大分スタンダード(特に板書の構造化)について、共通理解した。今年度より、授業の流れ、ポイントが見えやすい、板書計画の様式を作成し、活用するようになった。



板書写真を見合い、話し合う



提案授業 授業参観



学年部で話し合う

取組の具体②

みんなで「見合う・話し合う」を大切にする
校内研修の推進

○板書の構造化について、お互いの板書写真をロイロノートの共有ノートに映し出し、交流を行った。

○年2回の校内研究会においては、学年部や全体で指導案審議を行い、全員で提案授業を参観する。事後研では、授業参観・研究協議の視点に沿って、グループ協議を行い、全体で交流する。

○全員が年1回以上の公開授業を行い、授業をお互いに見合うことや、事前や事後に授業について話すことで授業改善を推進している。

○各学年の研究推進部を中心に、学年部や各学年で児童の実態や成果・課題等についての話し合いを行い、改善に向けた取組を行っている。